

(事務局)

吉田委員は前回欠席されていたが、ご意見は。

(吉田委員)

景観については問題ないと思う。層雲峡のような形ということで、現実的な落としどころとしてはこれが良いのではないか。サンモリッツのようにできるに越したことはないが。

(事務局)

ひらふ地区は景観については歴史的に色んな議論があった場所であり、北海道としても景観について重要なエリアとして位置づけられている。自然景観については他の場所よりも気を配る必要がある。

建物の高さの規制の基準についても、倶知安の町木であるイタヤカエデやニセコ周辺にたくさんある白樺の木の成長した高さが18～22mなので、これを一つの目安とすることになった。そういった経過からも、建物を建てる際は、公共施設ならなおさら気を配る必要がある。

大加田委員については、前回の時にあまり人工的な建築物ができるかどうかという意見があったが。

(大加田委員)

あまり大掛かりで機能的な施設になると、リゾート地の入口としてどうかという心配はしていたが、第一に機能を集中させるとすれば、こういう解決策もあるんだなというイメージはできた。

(事務局)

機能を第一に集中させると、より混雑が酷くなるのではないかという懸念もある。大加田委員の「機能的になりすぎる」という心配は、具体的にどのようなものか。

(大加田委員)

郊外の大型ショッピングセンターの2階建て駐車場のようなイメージを持っていたので、機能があまりにも見えてしまうという心配をしていた。しかし、サンモリッツの例のように、やりようによってはうまい見せ方があるんだなと思った。

(事務局)

大きな施設ができて目立ちすぎるとどうかというのはある。海外からはるばるこの地にやってきた“わくわく感”は大事。ひらふ坂周辺も含めて、車で移動する時間でも“わくわく

感”を盛り上げて行くことも考えないといけない。

(佐藤委員)

複層化して“わくわく感”を削ぐことにならないかということだが、ごちゃごちゃと車やバスがたくさん並んでいる光景と、複層化した駐車場では、意匠などにもよるとは思うが、大差ないのではないか。むしろ、車がすっきり格納されている方が良いかもしれない。

(永井委員)

機能が分散して施設も分散するよりも、ここがひらふの中心というような形になって良いのではないか。

(吉田委員)

ウェルカムセンターはどうなるのか。

(事務局)

イメージ図の茶色の部分が歩道のスペースで、凹んでいる部分がバスレーンのイメージ。現在の奥側のバス進入口の分、ウェルカムセンターを奥に下げることができる。その分、駐車スペースも広く取れる可能性はある。

1回目の会議のときにバスが滑るという話があったが、駐車場をフラットにすることで、それが改善される可能性も高い。

(佐藤委員)

除雪は大変そう。

(事務局)

溶かすか、まとまったら排雪するなどの方法もあるか。

(事務局)

オブザーバーの皆様からもご意見をいただきたい。

(中山主席専門官)

複層化をして効率的な駐車場の確保はできると思うが、混雑は問題となる可能性がある。バスは定時制・速達性が基本なので、それを確保することも重要。

(矢野地域政策課長)

1回目の会議のときに出ていた課題の解決としては、複層化が一番良いのではないか。人が勝手に横断して危険が生じないかなど、人の流れを考えないといけないと思う。

(荒井自然環境担当主査)

国定公園の指針の中で、立体駐車場についての規制は定められていないので、建設が認められるかどうかというところだが、必要性が認められれば認可されるだろうと思う。高さの基準等も明確なものはないので、景観等を勘案して総合的に判断することになる。

審議会に諮ることは必要ないが、公園事業の事業内容の変更の認可という手続きになるので、道の環境生活部で書類の審査をすることになる。

(尾崎建設指導課長)

実際に建設をする際には確認申請や規模にもよるが都市計画法に基づく開発行為の許可も必要だが、基準どおりの所定の手続きを進めていただければ。

(事務局)

これで複層化についてはまとめて、この会議については一度、区切りとさせていただきます。